

蕨・戸田  
地区

# 保護司会だより



和楽備神社合祀百周年にて

## 「更生保護活動の

## 更なる充実に向けて」



蕨市長 頼高 英雄

「蕨・戸田地区保護司会だより」第3号の発刊にあたり、ごあいさつを申し上げます。

山内会長をはじめ蕨・戸田地区保護司会の皆さんには、日頃より更生保護活動や犯罪防止活動、青少年の健全育成など、市政推進に多大なるご尽力をいただいております。市長として心からの敬意と感謝を申し上げます。

犯罪や非行をした人の地域における立ち直りの支援や再犯防止のために活動する保護司の役割はたいへん重要であるものの、近年では、全国的に担い手不足や高齢化が深刻化するとともに、更生保護に対する地域社会の理解不足など、保護司一人ひとりの負担が大きくなっており、昨年4月、活動拠点として蕨・戸田地区更生保護サポートセンターが開所されましたが、これを機に保護司活動が一層充実されることを期待しております。

蕨市では、市民の皆さんとの協働により、防犯対策をはじめ安全安心のまちづくりを市の最重要課題に掲げて取り組みを進めており、昨年の犯罪件数は前年と比べ22・0%減少しました。そうした中で、例年、貴会を中心に開催されている「社会を明るくする運動推進大会」は、更生保護への理解と青少年の健全育成をすすめる、犯罪のない明るいまちづくりを実現する上でたいへん素晴らしい取り組みであります。どうか、これからも誰もが安心して暮らせるよう、蕨・戸田地区保護司会をはじめとする関係機関、団体の皆さんにおかれましては、なお一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、更生保護活動の更なる充実と貴会をますますのご発展、ご活躍をご祈念いたします。発刊にあたってのごあいさつといたします。

# 更生保護活動のネットワークづくり



蕨・戸田地区保護司会

会長 山内 俊和

この度平成27年4月23日の総会において会長の職を任命されました山内です。同時にサポートセンターの開所式を観察所所長、蕨・戸田両市長をはじめご来賓をお迎えして開催いたしました。保護司の交流や、対象者との面談や、他の団体、社協、民生委員、教育機関との連携交流などの活用が望まれます。戸田地区、蕨地区保護司会の皆様のお役に立てるよう、皆様と更生保護の意識の高まりを共有して更生保護活動に微力ではありますが一層尽くし頑張る所存です。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。蕨・戸田両事務局におかれましては引き続きのご支援ご協力をお願いいたします。更生保護活動を通して地域の安全安心な社会づくりに貢献することが大切であり、平成28年度の重要な活動は保護司の確保、サポートセン



平成27年7月14日(火)実施

ターの活用、新任保護司のサポート、就労支援事業者の確保、などを他の団体と共に人の立ち直りに心と心を通わせる更生保護のネットワーク構築を進めて行きたいと思えます。毎年7月に開催される「社会を明るくする運動」推進大会では、更生保護女性会・BBS会・他の団体、社協、民生委員、教育機関の協力のもと講演会を開催しています。

# 困り事を地域で共に考える



戸田市福祉部長

松山 由紀

蕨・戸田地区保護司会の皆様には新しい年を迎えられ、健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃より更生保護活動を通じ、住民福祉の向上にご尽力をいただいていること改めて御礼申し上げます。さて、近年報道でも盛んに取り上げられているように、これからの日本は高齢化の進行や人口減少により、大きく地域が変わっていくと言われています。そして各自治体は、団塊の世代が75歳に到達する、2025年を『地域包括ケアシステム』構築の目標年として、地域の新しいしくみづくりに取り組んでおります。

具体的には、高齢になっても住み慣れた場所で暮らし続けていくために、在宅医療や介護が連携してサービスを提供できるように、また地域の中でちよつとした困り事をみんな

で考え解決していく「お互いさま」の支え合いのまちづくりです。もちろん簡単な道のりではありません。地域とつながっていないかでも生きていけないという方がおられるかもしれません。しかし、暮らしがひとたび行き詰まった時、病気になることも経済的に困窮することもあるでしょう。その時に、最も悲劇的な結末を引き起こすのは「孤立」です。どの世代の人たちも少しずつの力を出し合って、居心地の良い、安心で安全な自分たちのまちを作っていけたらと思います。

保護司の皆様は、更生保護活動の中で、住みやすい地域づくりを実践してこられた専門職であります。今後とも、福祉行政へのご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

# 蕨・戸田地区 更生保護サポートセンター設置



蕨・戸田地区保護司会

サポートセンター長 三輪 一榮

平成25年5月、第1回保護司代表者会議が開催されました。その際、当時のさいたま保護観察所幸島所長から、◎地区保護司会長の皆様へ(メモ)が渡され、「更生保護の営みを次の時代に確実につなげていく」という観点から、1. 広報紙(誌)の活用、5. サポートセンターの設置が掲げられておりました。すでに、さいたま浦和等で開設され、他保護区でも検討されており時代の要請でもありました。そこで、役員会にも図り事務局ともども先進地へ視察もいたし、両市の市長が出席頂ける総会や年末保護強化の際に、あいさつの中で要望させていただきました。



さいたま保護観察所長 笹井啓二氏



神保戸田市長・頼高蕨市長を迎えて

その後、本橋副会長から、神保市長から問い合わせがあったという報告をいただきました。そこで、役員会・両市個別の役員会等を開催し、いろいろご意見がありました。松橋企画調整課長から詳しい説明をして頂

きみなさまの了解をいただきました。また、運営にご協力いただく「企画調整保護司」も多くの方にお受けいただきました。その後、改めて観察所所長をはじめ会長・副会長が両市の市長にお願いにあがり、戸田市の福祉保健センターの一室をお借りすることになりました。

平成27年4月23日戸田市福祉保健センターにて両市の市長はじめ関係各位のご出席のもと開所式を執り行いました。その後、8か月が経過しておりますが、毎月15日程度開所しており、更生保護関係者の協議・保護司同士の協議・対象者との面接・ミニ研修等々に活用していただいております。

今後は「市民相談」等にも取り組んでいきたいとも考えております。最後に、ここまで陰ながら支えていただきました事務局長の方々に深く感謝申し上げます。



戸田健康福祉祭りに参加



## 平成28年度 年間事業計画 (案)

2月	1月	12月	11月	8月	7月	5月	4月
役員会 第四期地域別定例研修	広報誌発行 保護司候補者検討協議会	年末保護強化研修 第三期地域別定例研修	役員会 第63回埼玉県更生保護大会	役員会 第二期地域別定例研修	保護司候補者検討協議会 社会を明るくする運動	県外研修 懇親会	総会 第一期地域別定例研修 役員会
							平成27年度監査

社会を明るくする運動

蕨支部

蕨支部の社会を明るくする運動推進大会は山梨県立大学の西澤哲先生をお迎えしての講演会を開催いたしました。タイトルは「子どもの虐待を一緒に考えてみませんか？」



西澤哲氏

事例を交えて母親と子供の関係、虐待傾向を示す親の心理、虐待の既往など負の連鎖等分かりやすいお話で聴講者（200余名）の反応はとも良かったとの感想でした。

今年法務大臣のメッセージから総理大臣のメッセージになり国を挙げて犯罪や非行の防止を願い、罪を犯した人達の改善更生についての理解とご協力を関係する機関、団体の枠を超え様々な人が力を合



わせて犯罪や非行のない明るい社会を築こうとするより強い決意を感じました。

(山内)

戸田支部

戸田支部の社会を明るくする運動は戸田市暴力排除推進協議会及び戸田更生保護女性会のご



横断幕を設置 (戸田公園駅)

協力のもと、JR埼京線の市内3駅で啓発物資を配布する駅頭キャンペーンを実施いたしました。

この駅頭キャンペーンは毎年恒例となっており、駅の利用者からも啓発物資の配布を毎回楽しみにしているというお声もいただき、少しずつ社会を明るくする運動が地域に浸透していることを実感いたしました。今後も明るい社会の実現、安心・安全なまちづくりの推進に向けて、保護司の活躍が期待されます。



・戸田公園駅  
・戸田駅  
・北戸田駅  
駅頭キャンペーン実施

(日野)

戸田支部 自主研修会

蕨・戸田地区保護司会戸田支部の自主研修会が11月26日、戸田市文化会館で行われました。

本橋支部長の挨拶に続いて「知っていますか？薬物の真実」と題して、埼玉県薬物乱用防止指導員の日名田實氏に講演を頂きました。概要は次の通りです。

○第一部

薬物・麻薬類と最近問題化している脱法ドラッグの種類。その作用や動物実験結果及び人間に及ぼす弊害。また、社会問題に発展する危険な状態が凶解され、事故事例や、やがて人生破滅へ進む過程が詳細に説明された。また、日名田講師は同支部保護司でもあることから、薬物依存症の人々の苦悩・相談事例が挙げられ、その実態の過酷な生活状況などが紹介された。

○第二部

録画ビデオで薬物依存症から立ち直った二人の青年の体験談が紹介され、彼らの話の共通点は一度でも薬物に絡むと抜け出すには長時間専門医の治療が必要であること。家族を失いかげ自分自身の人生が狂い、社会活動の居場所や勤務先も無くなり、孤独な生活を送

る日々。さらにフラッシュバックという現実が存在すること。5〜10年後でも、ある日突然に起こるけいれんや口から泡を吹き出し止まらない現象で、専門医の治療を再度受診しなければ治らない症状等。

薬物乱用は重大犯罪であり、現代社会は薬物誘惑が身近に存在することに注意が必要という事でしょう。



日名田講師は、戸田環境整備事業協同組合でも講演を行い、最近では、戸田市新曽地区の町会でも同講演を行っています。町会での講演後は、子供を思う若い母親達の質問責めに合う程の反響で、講師の真意が伝わった様で講演後も熱が入っていました。私達保護司もマニュアル通りに活動をするのでは無く、一歩踏み出し犯罪を未然に防ぐ工夫が必要な時期に来ているのでは無いかと感じさせられました。

(細田忠良)

視察  
研修

## 久里浜少年院

平成27年6月9日、神奈川県横須賀市にある久里浜少年院を視察研修で訪れました。

東京湾・久里浜港に抱かれる様に建てられている施設は昭和24年に旧海軍対潜学校を転用して久里浜刑務所を設置、その後、昭和28年に久里浜少年院として発足しました。

久里浜少年院では、特に個別的な生活指導が必要とされる少年、日本語によるコミュニケーションが困難な外国人少年、少年院収容受刑者を対象としています。そのため教育内容には、個別面接、課題作文、ロールプレイングなどのプログラムがあり、少年一人ひとりにあった指導が行われています。また外国人少年に対しては、日本語の学習、文化や習慣に配慮しながら、社会適応性を身に付けるためのマナーや資格取得などの教育も行っています。さらに少年の立ち直りには、家族の協力が不可欠です。院では保護者会や面会、行事への参加を通じ、少年への理解と更生への協力をお願いしていると説明がありました。

様々な角度から、更生へのサポートが成されている事を実感しました。



久里浜少年院前

私の担当した中に、非行を繰り返した少年院に入った後、保護観察となった少年がいました。何度か面談をする中、ポツリと言った「少年院に入られた良かった」この言葉は、今でも私の心に残っています。理由を聞くと、「当時の自分は悪い事をして、止めたいと何度も思っていたが止める事が出来ない弱い自分が出て抜け出す事が出来なかった。少年院に入り教官とじっくり話す事で自分を詰める機会を与えられた。反省をし精神的にも強くなる事が出来た。これからは、がんばります。でも本当は不安でいっぱいです。」と胸の内を話してくれました。

罪を償い、社会で再出発しようとする少年達を温かく迎え入れ、社会の一員として見守って行く事が本当に大切な事だと気付かされました。

(二部久里浜少年院パンフレット引用)

(奥住)

## 学校との連携

## 戸田支部

下戸田地区の学校との連携は、小中学校の5名の校長先生方との情報交換という形で、年数回定期的に開催しています。おかげさまで対象者の学校生活の様子や、常に行動している友達のこと等、詳しく知ることが出来ました。

例えば、彼等は勉強をしに来るか否かは別にして、学校には来る、決して学校が嫌いな訳ではなく、むしろみんなと一緒に行動したいと思っている。一人で過ごすということは彼等にとつて耐え難い事で、常に誰かかつるんでいなければ不安にならない。それが彼等の本当の姿なのかもしれない……等。

対象者が卒業証書を授与される姿を見る為、幾度か式に出席し、感無量の気持ちを抱いたものです。中学校最後の卒業式を同級生全員と迎える事が出来るのは一生に一度、悔いのないようにと、思い描いて見守ってきました。

保護司と学校の両者は、それぞれの事情もあり、また守秘義務もありますが、理解と協力を得ながら進めていきたいと思えます。

(武内尚義)

## 蕨支部

蕨市内3中学校の内の第一中学校(在校生555名)との連携の一環として、地区担当保護司との連絡会が開催されました。

初めに校長、教頭両先生のご案内で、2、3年生の各教室で2時間目の授業を参観し、校長室に戻って意見交換を行いました。

校長先生から教育活動全体の説明で、昨今学校関係者による事件、事故が新聞やテレビで多く報道されていることから、日々の学校運営には苦勞と心配が絶えないこと、又、県や市で開催された各種文化、スポーツ大会に参加した生徒の輝かしい成果や、不登校解消に向けた取り組みの成果が上がっていること、保護司からは生徒の生活全般や登下校時での交通道德の課題等が質問され活発な意見を交換しました。現在第一中学校では特に非行問題はないが、今後課題があればその芽が大きくなるに保司と連携し解消していきたい。相互の協力を確認しました。

(小槻)



# 第62回 埼玉県更生保護大会開催される

平成27年11月13日、さいたま市民会館  
おおみや大ホールにて開催されました。

保護司・更生保護女性会・更生保護関係者1200人が一堂に会し、盛大に行われました。開会の挨拶のあと、前厚生労働事務次官村木厚子氏による講演が行われました。「共生社会を創る司法と福祉の連携から考えること」と題し矯正施設を退所した障害者への支援、そして社会との繋がりを育てる様に多様な面から支援するあり方を学ぶことが出来、貴重な講演でした。



第62回 埼玉県更生保護大会

式典では顕彰が行われ、当保護司会から、法務大臣表彰1名、他10名が受賞されました。又、26年度秋、27年度春の叙勲、褒章受章者の紹介がありました。

おめでとうございました。  
(山本)

### 瑞寶雙光章

本橋 恵子 (戸田)

### 法務大臣表彰

金子 篤徳 (戸田)

### 全国保護司連盟理事長表彰

結城 辰雄 (蕨)

### 関東地方更生保護委員会委員長表彰

山本 久枝 (戸田)

### 関東地方保護司連盟会長表彰

細田 忠良 (戸田)

莊 智子 (戸田)

### さいたま保護観察所長表彰

瀧澤 林三 (蕨)

平井 恵子 (蕨)

### 埼玉県保護司会連合会長表彰

小槻 保美 (蕨)

山田 憲兒 (戸田)

石井 剛 (戸田)

### 埼玉県知事感謝状

武内 尚義 (戸田)

## 瑞寶雙光章を拝受して



蕨・戸田地区保護司会  
副会長 本橋 恵子

平成27年春の叙勲に際し、はからずも瑞寶雙光章の栄に浴することが出来ました。これは、永年にわたる皆様方の心温かいご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

平成27年5月11日、法務省において勲記勲章を拝受し、続きまして皇居に参内し、春秋の間におきまして

天皇陛下に拝謁しお言葉を賜りました。厳かな時間の流れの中、そつと目頭を押さえる周囲の受章者の姿を目の当たりにし、改めて受章の喜びをかみしめました。

昭和62年6月に保護司の委嘱を受け、以来、28年数か月、顧みますと、長かったようでもあり、瞬く間であったようでもあり、いづれにしましても、価値観を左右させられる大変意義深い歳月でありました。

恵まれない家庭環境の中で喘ぐ多くの少年たちに出会い、彼らの不遇に涙したり、自分の無力さを嘆いたりした連続でしたが、もう少し彼らに寄り添うことで、私を支えてくださいました皆様への感謝に代えさせて頂きたいと思えます。

## 保護司の異動

退任 中村 信行 (戸田)

新任 三明 滋 (蕨)

関口 直子 (蕨)

本間 幹夫 (戸田)

津田 直哉 (蕨)

### 編集後記

本誌も第3号となり、記載事項が特定されつつある中で、その年度を振り返る事が出来る貴重な体験をさせて頂いています。

一つの行事に各々に沢山の思い出があり、その事を編集する時、内外から試行錯誤で文章にしています。

読者の皆様とは違う考えもあるでしょうが、心を込めた広報誌になる様務めています。今後とも委員一同、活動に係る皆様のご意見、ご要望を踏まえて、心のこもった広報誌を目指していきたいと思っています。

### 編集委員

編集委員長 細田 忠良

泉山 高子 細井 玲子 山内 俊和

奥住美千子 細田 忠良 山本 久枝

小槻 保美 本橋 恵子 (50音順)